

# — 千葉工業大学 —

## 1 月 31 日 (日) 一般選抜 A 日程 英語

### 解答・解説

1. (1) イ (2) ウ (3) イ (4) エ (5) ウ (6) エ (7) エ (8) イ (9) エ (10) イ
- (1) occupied は形容詞。be occupied with～で「～で忙しい、手がふさがっている」という意味。意味が近いのは busy 「忙しい、手が空いていない」だと判断できる。
- (2) ウの be expecting～は「〈人〉が(予定通りに)～の到着を待っている」という意味。(2) \_\_\_\_\_ に続く文「(待っていた)友人が到着すると、携帯電話を片付ける」につながる。
- (3) (3) \_\_\_\_\_ を含む段落の内容を検討。前半はフランス人とスペイン人の共通点が書かれていて、on the other hand 「それに反して」ロンドンでの状況を考える。この段落の最終文は「イギリス人は電話や恋愛に関する時間に対して、より プライバシー を持つことを明らかに好む」という意味。
- (4) in line with～で「～と一致[調和]して」という意味。
- (5) 第 3 段落の内容から判断する。アは surprised が、イは a hub airport が、エは five cultural characteristics が誤り。
- (6) 第 4 段落・第 5 文の内容から判断する。「他人に電話での会話を聞かれる危険より、(車で)スピードを出す危険の方がマシだ」とある。
- (7) 第 4 段落・最終文から第 5 段落・第 1 文の内容から判断する。「電話での会話を他の人に聞かれないように、戸外に出てその結果“clustering=(人が)集まる”という行為につながる」とある。
- (8) 第 6 段落・第 2 文の内容から判断する。アは内容に反するし、ウとエは言及されていない。
- (9) アは第 7 段落最終文の内容と、イは第 7 段落・第 1 文の内容と、ウは第 6 段落・最終文の内容とそれぞれ一致している。エは dislike が本文の内容に即していない。
- (10) 第 8 段落・第 4 文の内容から判断する。アは more often が、ウは“no” strict rules が、エは unacceptable が本文の内容に即していない。
2. ① ア ② エ ③ カ ④ キ ⑤ イ ⑥ ウ ⑦ オ
- ① climate change という名詞句を、続く文の代名詞 its で受けている。
- ② 文頭 far from being passive victims から考える。far from～「決して～ではない」なので、being passive victims と反対の内容が来る。
- ③ カの文中 this は、前文の中の helping young people take action to protect the future of our planet だと考える。
- ④ キの文中 this は、前文の中の the decision-making processes だと考える。
- ⑤ 空欄直後の This が、イの内容を受けていると考えられる。
- ⑥ ウの her は、前文の Sathviga `Sona` Sridhar だと考えられる。
- ⑦ オの young people と後に続く文中の youth は同義と考えて良い。

## 3. (1) ア (2) ウ (3) ウ (4) ア (5) ウ

- (1) **asks her opinion with consideration** だと「考慮して彼女の意見を尋ねる」という意味になってしまう。
- (2) **ア** は、明日「彼らと交渉中の申し出」を受け入れるべきではないという意味になってしまう。「明日の交渉の席で」に対応するのが、ウの文中 **in the negotiation meeting tomorrow**。
- (3) **イ**は **He didn't seem to care about if his scandal was public**なら正しい文。
- (4) **イ**だと「扱う」ことを知っているとなり「扱い方」という意味にはならない。ウだと「怒らせないように」、エだと「上司を(うまく)扱ったことが」上司を怒らせたという意味になってしまう。
- (5) **the trouble is that S' V' ~**で「困ったことにS'がV'する」という意味。

## 4. (1) ア (2) ア (3) イ (4) イ (5) イ (6) ウ

- (1) **look into** ~ 「~を調査する」
- (2) **with** は以下【対象】が来て「…に対して、…に」
- (3) **available** は形容詞「利用できる」
- (4) **due to** ~ 「~が原因で」
- (5) **whether** は接続詞で、名詞節を導き「S'がV'するかどうか」
- (6) **in private** 「内密に」

## 5. (1) イ (2) ア (3) ウ (4) ア (5) エ (6) イ

- (1) **go on** ~ing 「~し続ける」
- (2) **put off** 「延期する」
- (3) **manage** 「管理する」
- (4) **in short** 「要約すると」
- (5) **bring up** 「育てる」
- (6) **by chance** 「偶然(に)」

## 総評

### 1. 長文問題総合

構文的にも内容的にも平易で読みやすい文章でした。比較的苦戦しがちな内容に関する問い(5)～(10)も、本文の順序通りに出題されており、内容が分かれば選択肢の正解／不正解の見極めも苦勞せずできたであろうと思われま

### 2. 長文空欄補充

他の大問の中に比べると、少々やりづらかったかもしれませんが、空欄の数と選択肢の数が同じで、全ての選択肢がいずれかの空欄には入る訳ですから、その意味では正答率は高まりそうです。選択肢の文・空欄前後の文の指示語(this など)が、何を指すのかを意識できると良いでしょう。

### 3. 和文英訳選択

正しいものを選ぶというより、4つの文のうち3つが誤っている訳ですから、「誤っている箇所」を見出すことができるかがポイントです。

### 4. 短文空欄補充

基本的な語彙の知識が備わっているかが問われています。ある程度さぼらず学習してきた受験生にとっては、時間を全くかけずにスラスラできたと思われま

### 5. イディオム同意語選択

大問4同様、基本的な語彙力が試されています。

～全体を通して～

例年通りの、あるいは昨年度に比べると易しくなったと言って良いかもしれませんが。普段の学習で、下手に難しいものに手を出すのではなく、基礎～標準レベルを確実にすることがいかに大切か、改めて思い知らされる問題と言えるでしょう。